

“鮮度一番！”

No.225

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

1～2 / ワーママのジレンマ Vol. 8

2 / 『堤中納言物語』 第8話

2～3 / ひとことコラム

3～4 / 運営委員会で話し合われたこと 編集後記

Vol. 8

ワーママのジレンマ

石本史子

新年あけましておめでとうございます。本年も拙筆ながらどうぞよろしくお願い申し上げます。

まず今の私の状態をお伝えすると、夜11時過ぎ、寝かしつけが落ち着いたので薄暗い中ベッドの上で原稿を書いております。別の部屋で夜なべしているんですね、結果としてすぐに1歳の娘が眼を覚まし作業ができなくなるので、ベッドの上で、しかも薄暗い中、iPad miniに連携させたキーボードで入力しています。いつになったら夜なべも楽にできるのですかねえ。

さて、今号は「男女共同参画」について、感じたことを徒然に書きたいと思います。

最近『子の無い人生』（酒井順子著）というエッセイを読んでいます。というのも、私自身結婚が決して早い方ではなく、子どもを2人産めたことは本当に幸運だったと思っており、「子の無い」ということが自分にとっても多分にあり得たことだと感じているからです。ですから他人事に思えず、もう一人の自分を追体験している感覚で読んでいるとも言えるかもしれません。

読み進める中で「もし子どもがいなかったら…」ふとそう思った時、1つのことに気が付きました。

「私、男女共同参画なんて意識しなかった！」ということでした。

例えば結婚しても夫婦2人の生活は大人だけなので、なんだかんだ言って適当に融通が利きます。「今日は飲み会だから」「今夜は残業しなくちゃいけないから」とその日その時の気分や状況で動くこともできます。独身の頃とあまり変わりません。はたまた独身だった新卒の頃、東京で食品商社の営業だった私は男性社員と分け隔てなく働き、等しく扱われていたので、性別による不満はありませんでした。きっと「男女共同参画」という言葉ができた頃は、仕事の面でも女性はお茶汲みコピー取りというような業務の別があり、それをなんとか是正したいという熱い思いから「男女共同参画」が生まれ、そのおかげで私は思い切り仕事が出来たのだらうと思いました。だから、子どもを持って初めて「男女共同参画」ということについて考えたのだと思います。

今まではどちらかというと、女性が男性と等しく働ける、ということを目的として来た色合いが強かったらう男女共同参画ですが、これからはますます家事育児への男性の参画がフォーカスされていくのだらうと思っています。そして、産休育休を経ても、マミートラックから抜け出せないということもなく、実力と努力とでキャリアアップしていけるというものを目標にしていく必要があるのではないのでしょうか？私は決して未来の話をしているのでは無いのです。ノルウェーにとってはすでに現在の話なのです。管理職のママは仕事に行き、今日はお休みのパパが子どもを小脇に抱えながら掃除機やアイロンをかけているノルウェーの家族を見た時愕然としました。国会議員や会社の管理職の人数もクオータ制を導入しています。

と同時に、私を含め、多くの母親が感じている心理的な壁があると思います。それは「やっぱり子どもは私がメインでみたい」という思いです。一体ノルウェーのママたちはどんな思いで働いているのか、とても興味があります。私はそんなノルウェーを実際にこの目で見てみたくて仕方ないのです。どうでしょう、皆さんで行きませんか？

今回はこれで終わりです。子どもが眼を覚ますことなく作業を終われることに安堵しながら眠りにつきたいと思います。

『堤中納言物語』を読む

(第8話 最終回)

「思はぬ方にとまりする少将」

三条地名研究会 杉野真司

「薄幸のお姫様を救い出す王子様が登場するお話」と聞けば、洋の東西を問わず、よくあるロマンスを思い浮かべるかもしれません。薄幸の姉妹のお姫様が二人、救い出す王子様も二人なら、二組のカップルが誕生し、幸福度も倍増するストーリーを想像されるでしょうか。ところが、お互いのパートナーを取り違えてしまうアクシデントが発生し、薄幸の姉妹のお姫様は更に失意のどん底に突き落とされ、王子様たちは思いがけず別のお姫様を手に入れたと得意になると聞けばどうでしょうか。

「思はぬ方にとまりする少将」は、そんな取り違えをテーマに扱った作品です。現代社会には、夜はあっても闇がないと言われます。平安時代の夜は闇の深い時間帯でした。灯りの乏しい漆黒の闇夜の中で、取り違えというミスを犯してしまうお話です。登場人物たちは、源氏物語の亜流のキャラクターに過ぎず、人物の性格設定より、作者は、お互いの恋人を取り違えるというプロットに主眼をおいて、読者を驚かせようとか、どんな反応を示すか知りたいたいと思って作品を書いたようです。同時代には『とりかへばや物語』という主人公の男女の性別を取り替えた作品もあります。取り替えや取り違えというモチーフは、平安時代末期では関心が高かったようです。反面、現代の研究者の目には、獵奇的、退廢的に映るようで、作品の評価はあまり芳しくはありません。

当時の貴族社会には、物語を読んで感想を話し合うサロンが形成されていました。取り違えのシチュエーションに、驚いたり、呆れたり、似た様な事件があったなどと、夜更けまでおしゃべりに興じたことが想像されます。

『堤中納言物語』を読むは今回で終了します。まだまだ、面白いお話が残っているのですが、それはまたいつかの機会に。しっぽ切れの終り方で余韻を残すのも『堤中納言物語』の常套手段です。長らくお読み頂きありがとうございました。

(H29.12.31)

・・・ひとことコラム・・・

あけましておめでとうございます。

阿部正剛

年末は大雪に見舞われ年始も大雪との予報も有ったので心配していたのですが、三が日はそれほど大荒れせずほっとしました。年末年始は毎年東京の妹が姪っ子甥っ子三人引き連れて里帰りしてくれます。旦那はゴルフをしたいんで一人留守番で来ないのでお互い気楽です。長女も高校生になってバイトしたいと言っていたので、来てくれないかなと思いましたが、爺婆も今年も全員の孫の顔が見られて喜んでいました。

三が日は買い物三昧で元旦はイオンモール新潟南が朝8時開店なのでそれに間に合うように家を出て、8時15分位には到着したんですがそれでも駐車場が既に満車状態で端っこに空きスペースを見つけ駐車できました。行かれた方も多いと思いますがめちゃくちゃ混んでいました。8時開店では従業員はもとより取引先等関係する会社の従業員まで、多くの人たちがそれに合わせて休めないんだろうから影響が大きいんだろうと思う反面、相当の売り上げがあるんだろう

から休めないもの無理は無いんだろうなと感じました。

帰りにひらせいホームセンター寄ったら、末っ子が任天堂のゲーム機「Nintendo Switch」を見つけてびっくりして一目散に駆け寄り、これ欲しくて東京でも探していたんだけど大人気でどこも品切れで予約もできない状態なんで買ってくれて言うんで、値段見たらこっちがびっくりしたんですがそんなに欲しいならと言うことで買ってあげましたが痛い出費でした。子どもの頃「元旦におさい銭以外のお金を使うな」って言われたのも遠い昔の話でまったく通用しません。2日3日も他のショッピングモール巡りでしたが何処も彼処も大賑わいでした。

三が日はそれほど大荒れしなかったお天気も10日からの大雪で電車が半日も立ち往生したりで大変なことになりました。家の前も消雪パイプの水が出てなくて市役所に電話したんですが、確認しますって言うだけでどんどん雪が積もって車も大渋滞。家の前でバスも進めなくなって引き返そうとしたら、家の垣根に衝突しコンクリートとフェンスでできた垣根もバスには勝てず見事に大破してしまい無残な状態で雪解けを待っています。春が待ち遠しい今日この頃です。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成30年1月11日(木) (AM9:30~10:30)

場 所 大雪のため急遽会員宅

あけましておめでとうございます。

去年は、“鮮度一番！”へ石本史子さんから「ワーママのジレンマ」、杉野真司さんからは「堤中納言物語を読む」を寄稿していただきました。

「ワーママのジレンマ」では、私達より1回り下の世代の女性が、子育てを通してどんなことを感じ、考えているのかを知ることが出来ました。「堤中納言物語を読む」では、遙か昔の平安時代の人々の事を想い、時にはクスッと笑わせていただきました。皆様は、どんなご感想をお持ちですか？

会報への感想、あるいはご意見、または、ご自分のやっていたらいいこと等、何でも結構ですので、是非あなたの声を“鮮度一番！”へお寄せくださいますようお願い致します。

また、このお正月の連休中に小林淳さんが、昨年燕三条エフエムで放送された“ワイワイ女性ひろば”を当会のホームページに更新してくださいました。各月のテーマから、興味の持たれましたところをクリックして、お聴きください。

4月のテーマ「超高齢社会を豊に」

- ①私たちは高齢者？ ②年齢の枠組みをこえて ③生きがい ④時代のけん引役として

5月のテーマ「人生100年時代」

- ①介護する側される側 ②わたし流ケアプラン ③わたしの元気回復法 ④団塊女子の決意

6月のテーマ「市島教授のコミュニケーション講座

～女と男のコミュニケーション・通じていますか？～

- ①なぜわからない、女の気持ち！ ②男は一体何を考えているの？
③熟年離婚急増中！ ④もうひと言あったら ⑤心をつなぐコミュニケーション

7月のテーマ「人生100年時代」

- ①新たな人生ステージ ②自分の居場所ありますか？
③5人に1人が認知症の時代？ ④スマイルエイジングを目指して！

8月のテーマ「気象情報使いこなし講座」

- ①雨の降り方が変化している ②集中豪雨はなぜ起こるか
③水害対応マニュアルを読む ④大雨に備えた暮らし方 ⑤情報は命を守る

9月のテーマ「又エック開館40周年によせて」

- ①学びの喜びを知る ②なぜ、女も男も生きにくい？
③シニア世代の行く末 ④又エックでの学びを今に

1. 研修会&新年会について

1月27日(土)に開催する研修会&新年会への参加者の確認をしました。
次号で研修会の様子をお伝えします。

2. にいがた女性会議からの協力依頼について

にいがた女性会議が、「(公財)市川房枝記念会女性と政治センター」からの事業協力依頼を受け、2018年3月17日(土)PM1:00-3:30アルザにいがたで、ドキュメンタリー映画の上映やトーク等を行います。市川房枝さんを知る人も少なくなり、日本の男女格差指数(GGGI)は144か国中114位、特に政治分野における女性比率の低さは回復する兆しが見えないことから、当会へ「協力団体」として参加してほしいとの依頼がありました。会の趣旨に賛同し、チラシへの団体名掲載やチラシの配布等、出来る範囲での協力をする事となりました。新潟市へは、後援を依頼中とのことです。

3. NWE Cボランティア 40周年記念フェスティバルについて

当会の田辺とも子さんも関わった又エックのボランティア活動が、40周年を迎え記念のフェスティバルが開催されます。日時は、2018年2月6日(火)10:00~20:00、会場は、(独)国立女性教育会館(又エック)です。

テーマは「明日にむけて~手から手へつなぐ 男女共同参画推進のボランティア活動~」
趣旨は、少し長くなりますが、活動されてきた方のお気持ちがあふれているので掲載します。

趣 旨

「私たち NWE C ボランティアは、開館当初からボランティア活動に従事し、以来40年にわたり NWE C 設立の精神に賛同してその事業を支えるために力を尽くすとともに、ボランティア自身の学びと活動を通して、自らエンパワーメントを目指してきました。

今、大きく変動し、多様化する社会の中で、男女共同参画社会の推進・実現のために、私たちは何ができるのか、施設との関係はどうあるべきか、などについて原点を再確認しつつ、新たな一歩を踏み出す時期にきています。

当40周年記念フェスティバルは、40年の歩みを振り返り、今後の実践の方向を考える機会として企画いたしました。ボランティアの創意にあふれる多彩なプログラムを通して、学び、共に考え、交流する場としていきたいと思っております。」

お問合せは、NWE C ボランティアの会 宮本紀子(電話 0493-62-3597)さんまで。

4. その他

次回の運営委員会は、2月7日(水曜日)9:30~男女共同参画センターでおこないます。会員の皆様、会員でない皆様、どなたでもおいでください。

編集後記：

先日の大雪には疲れと驚きとがMax状態でしたが、今シーズン最強クラスの寒さがまたやってくるとか…！寒波を吹き飛ばす何か暖かいニュースはないでしょうか？2018年もどうぞ鮮度一番をよろしく願いいたします。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>